

平成二十六年年度 大学院人文科学府修士課程第2期入学試験問題
(国語学・国文学)

一 別紙Aの影印を全文翻字せよ。(二〇点)

二 別紙Bの記事について日本語史的観点から分析を加えよ。(二〇点)

三 次の事項について知るところを記せ。(四〇点)

(1) 狂言綺語観

(2) 浅井了意

(3) 日本霊異記

(4) 語用論

四 次の中から志望専攻に応じて一問を選択し、解答せよ。(二〇点)

(国文学・古代)

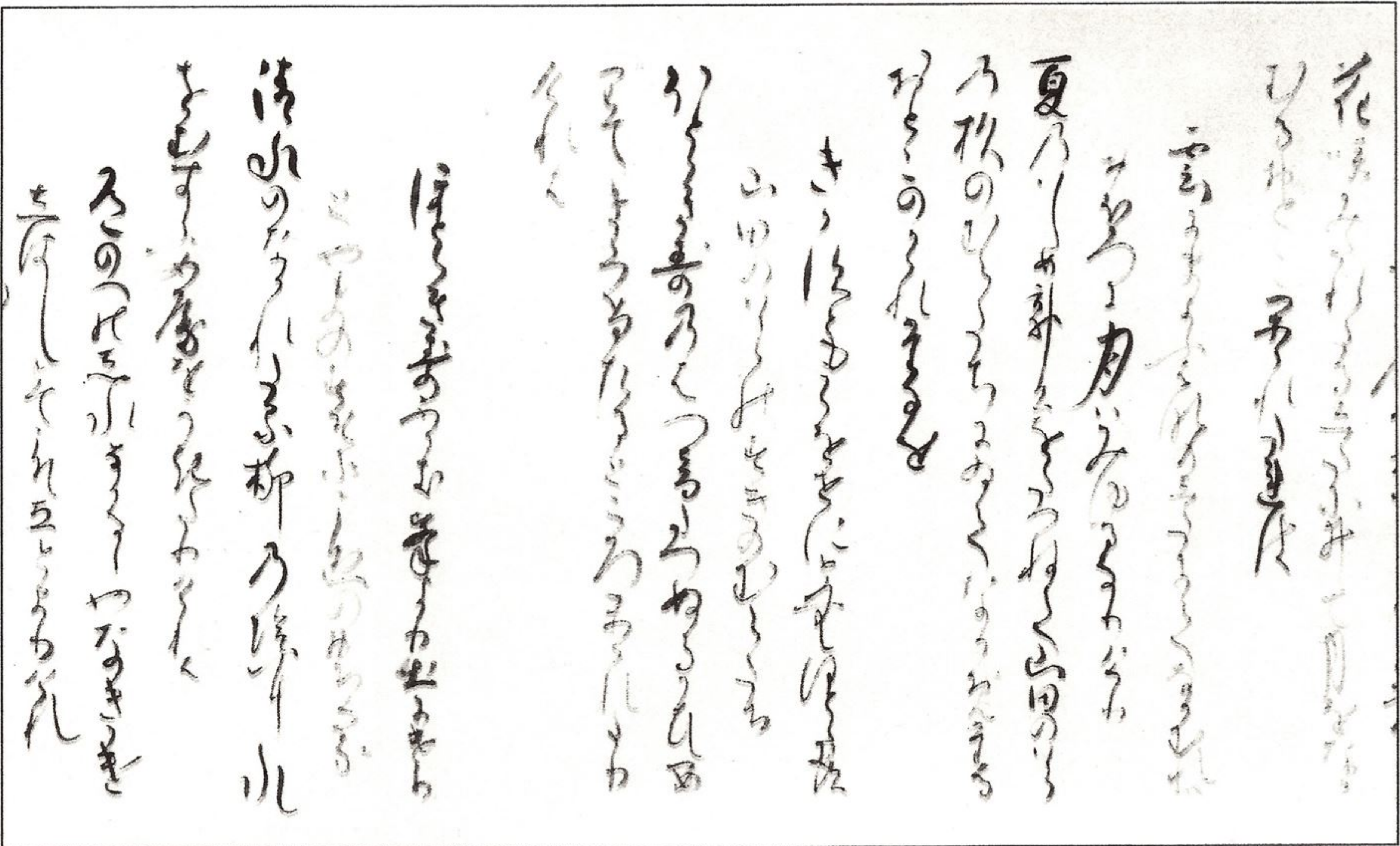
・平安文学における「垣間見」について論ぜよ。

(国文学・近世)

・近世文学における雅俗意識の推移について述べよ。

平成二十六年 大学院人文科学府修士課程第2期入学試験問題
(国語学・国文学)

別紙A



洛浦

云洛浦モ昔年林濟下ニ在テ巾瓶取持ノ侍者ヲセラ
 老僧ガ一筋ニテニキクシクホノ實モトヲセラレテ誰放ノ思ク
 自家他家共此ノ矢先キニ回ル者ハ千萬人中ニモアルハハツ
 放ツテラセラレタ加此頼母敷ヲニキクシテ御非在ルハハツ
 暇ヲ請ハレタホトニ翻テ去ムト一閑スエラレハサリ共難達ナ
 在レ共洛浦ハサスカ家少戦イニ慣レタ何カ此度ナト云テニケヌ取
 即ス以テ開テハタト喝ソサテ投開底ノ油納僧テハナイカ処ヲ毛採
 際何ニガ詩レナサカ令ス便打テニ林在ル共林際下送行ノ一白
 ト云テニ老離袖ノ処ヲ下ト見様ナ 代ハ錦綺段ニ梅開ヲス
 半多詩多伯顔熊相ガ元朝ノ時キ江南ヲ収テ帰陳ノ底ヲ作
 タ江南ト云名譽ノ地ヲ収メテ手ニ入レタホトニ七球萬寶モ多カ即
 在レ共其ノ財福ニ目シカケテ大瘦嶺ハ名ヲ得タ梅ノ道地ナト云
 テ立チ寄テ色口ヨキ梅華一兩枝ヲ折テ鐘ノ羽合ニ挿テ歸タ
 誠ニ花ヨリモイサキヨイ胸首ナニ老離袖ノ袂トノ内モ間ヨウ
 銅頭鉄背下百家ノ窠ト成タ林際ナホトニ昔年巾瓶ヲ執持

此門モカテハ合メテイホク獅子窟中ニ無異數ナ洛浦モ終イニ
 甜スサテ合メタ疾多誰ノコウス終ニ頓又ニ辰テ昔年追慕レタ況
 ヤ自恣ノ日本ト云テ何ガイニスウケルウス當冬各々在寺セラレタト
 九旬ナシテモ耳ニ自事ハ一言モアムイ殊ニ自恣ノ目ニ至テ別
 ニ何テアノ事カアラクニ只門前ノ野梅ヲ一兩枝折テ布巻挿下
 帰ラレウマ下ヨ言坐句モ鳥ニ世ヌカ山僧ガ鼻孔亦各々モ耳
 孕ニ明ハサレテ即ニハ白恣ノ言ハ得レシマイン當冬ハ真正舉揚
 ノ行處ナホトニ昔前ヨリノ自恣ニ至ルニ終ニ容易ニ世又サテ
 少モ耳根ニトメラハ真ニ意趣ノ及タ事ヨト云處下真正舉揚ノ
 憚ハ聞エタス

巨海代之抄上

五十一卷